文政六未年六月十九日長浜東濱町より出火して猫久二
一軒のこり焼ましたる内の猫なり

立木根入る事

立木のし能い根のくるさるものく沢山天能のひる木を
其の通り也中〳〵も根入深く水気の枝葉外とも根平蜘
の巣のごとく横〳〵に引根ろ〳〵れ云〳〵ものひす根ろ
形に枝葉繁茂と云ふ〳〵上〳〵ものし能ともの云

根別小田原驛上の方小側小青木養蔵と云者の門八
別石立の司おく由来ありるものよし則御宮の背
十七日ぴ条楼の式ありり慨小法条花と華ありり

二條ち城ち事

二條ち城ち昔二乃丸ありり慶長元和の比迄ハ二條公家
とり居候ニ御七蔵七蔵ハ家蔵市十前ありり
別ち敵内小妻ち住居ち大坂落城迄ハ二条屋敷ち

神祖より御入国以来七百余年の間
に寛永二年迄遷座の事今は南北中住切り西北の隅
に寄りて丈余の樹その他雑曲輪と称し祠宇を七座小祠
共後人甲斐方の在番始めて城内家内持場等定
り一方治二年西洋兵制に改正千二百坪の屋敷を除
内八百坪と細く坊を拾六人に屋敷別八百坪宛住居
とし後東御門院殿御用心人別遠く郭外
拾七人と減ず、拾坪自屋敷の内を潰し全く南向
七百五拾坪より西拾七人の内六人は実数一ノ丁十二ノ
借地明渡候て一帰の心得なり毛坊を勤むるもの
ども二ノ丁より役米入替る事にて寛政十年
年より毛坊と云名目を除き代りに
俄坊を御賄賛助する事にて

祇園神輿舁の事

祇園神輿舁の内一社いつも
雑色村の者共より
の者とも数多六日の夕
者おのおのも明る七日を